

社 会

(中学校第2学年)

注 意

- 「始め」の合図があるまで、中の問題を見てはいけません。
- 下の欄に、組、出席番号、名前を書きなさい。
- 「始め」の合図があったら、別に配られている解答用紙に、組、出席番号、名前を書き、「A問題（基本）」から始めなさい。
- 問題用紙は、全部で11ページあります。
「A問題（基本）」は、6ページで、問題は2まであります。
「B問題（活用）」は、5ページで、問題は2まであります。
- 問題に取り組む時間のめやすは、「A問題」が25分、「B問題」が20分です。
時間に気をつけて解きなさい。
早く終わったら、先に進んで解いても、もとにもどって解いてもかまいません。
- 答えは、解答用紙の決められた場所に、はっきりと書きなさい。
- 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげなさい。
問題の内容などの質問には答えられません。

	問題番号	時 間
A問題（基本）	1 2	25分
B問題（活用）	1 2	20分
合 計		45分

2年	組	番	名前
----	---	---	----

A 問 題

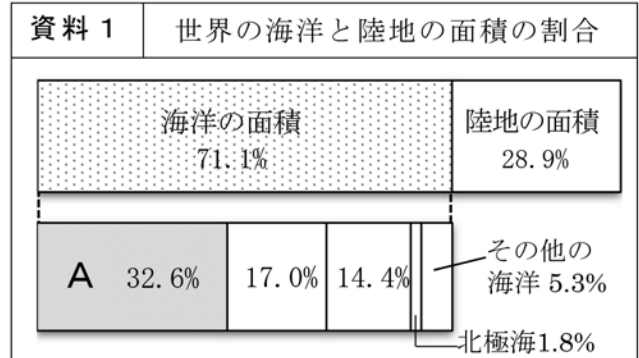
時間（25分）

1 後の 1，2 の問いに答えなさい。

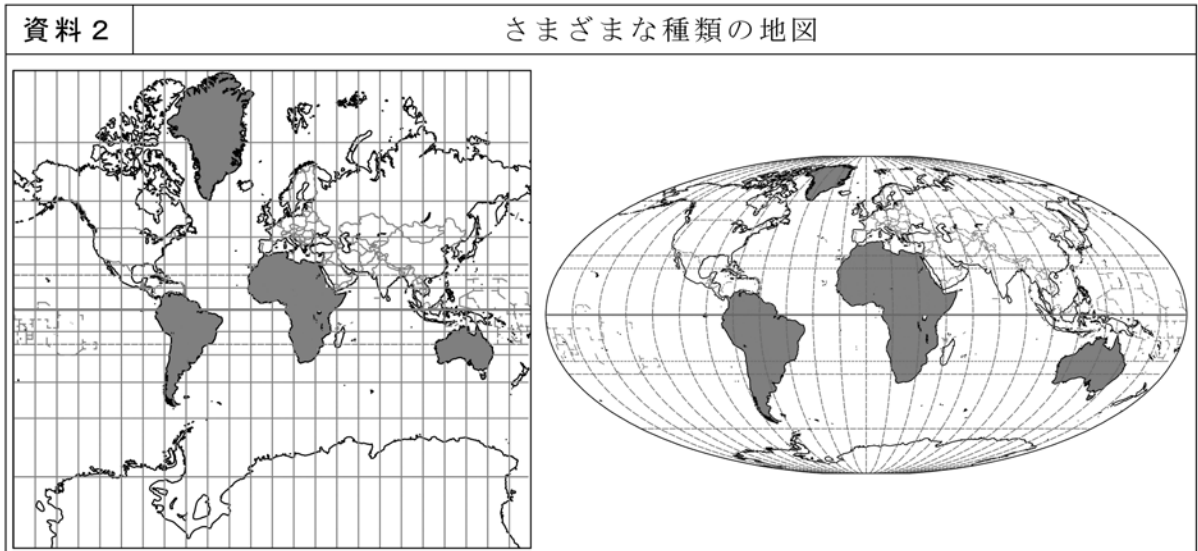
1 世界の姿について、後の(1)～(6)の問いに答えなさい。

(1) 資料 1 の A の海洋名を答えなさい。

(2) 資料 2 の 2 つの地図に示してある、グリーンランド、アフリカ大陸、南アメリカ大陸、オーストラリア大陸のうち、実際の面積が最も広いものを 1 つ選びなさい。



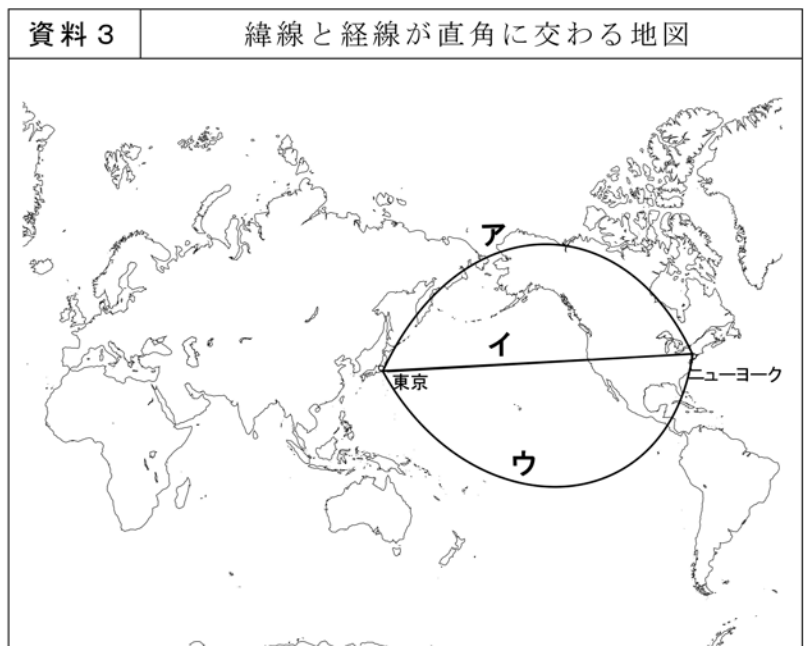
(「理科年表」平成 27 年他より作成)



(3) 東京とニューヨークを結ぶ最短距離を示す線として最も適切なものを、資料 3 のア～ウから 1 つ選び、記号で答えなさい。

(4) 内陸国として適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ア イギリス
- イ オーストラリア
- ウ モンゴル
- エ エジプト



- (5) 資料 4 より，地球儀に引かれている縦横の線について説明した，次の文章中の A ～ C に当てはまる数字を答えなさい。ただし，同じ記号には同じ数字が入ります。

横に引かれた線を緯線といい，赤道を（ A ）度として，地球を南北にそれぞれ（ B ）度に分けています。

縦に引かれた線を経線といい，イギリスのロンドンを通る線を（ A ）度として，地球を東西それぞれ（ C ）度に分けています。

資料 4

地球儀

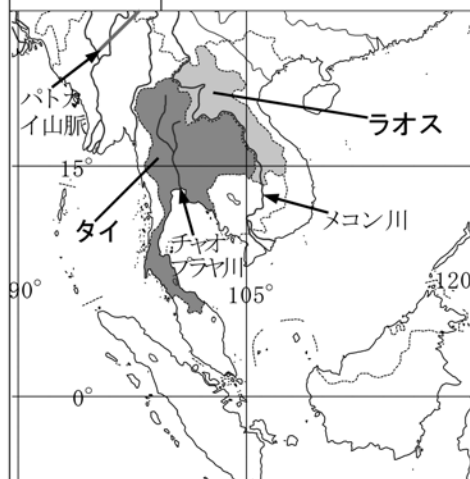


- (6) 資料 5 のタイとラオスの国境線の基準となっているものとして，最も適切なものを，次のア～エから 1 つ選び，記号で答えなさい。

- ア 経線
- イ 河川
- ウ 山脈
- エ 植民地としての境界線

資料 5

東南アジアの地図



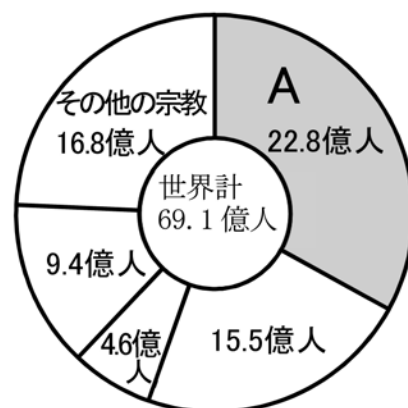
- 2 世界各地の人々の生活と環境について，後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文章は，資料 1 の A の宗教について説明したものである。この宗教名を答えなさい。

この宗教では，日曜日は仕事を休む日で，教会へ行く人が数多くいます。ヨーロッパの多くの地域では，日曜日はほとんどの商店が閉まっております，町は閑散（かんさん）としています。

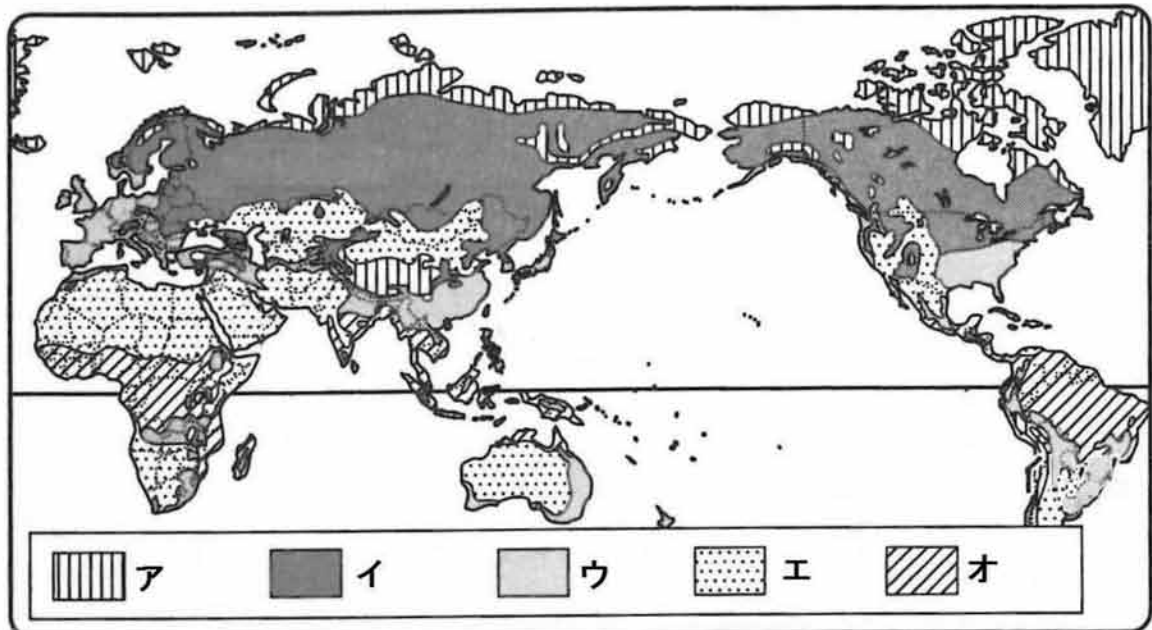
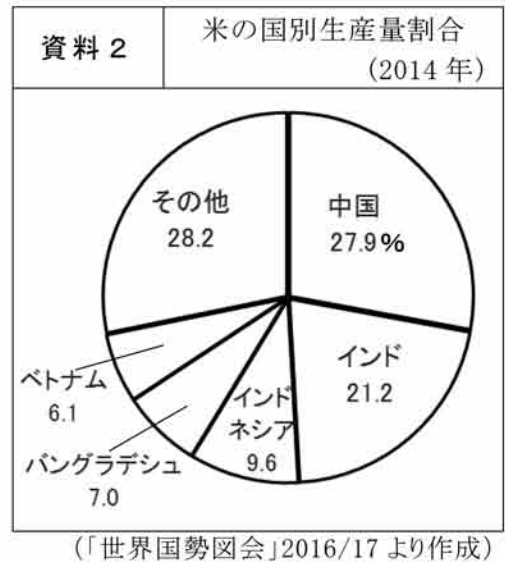
資料 1

世界の主な宗教人口
(2010 年)



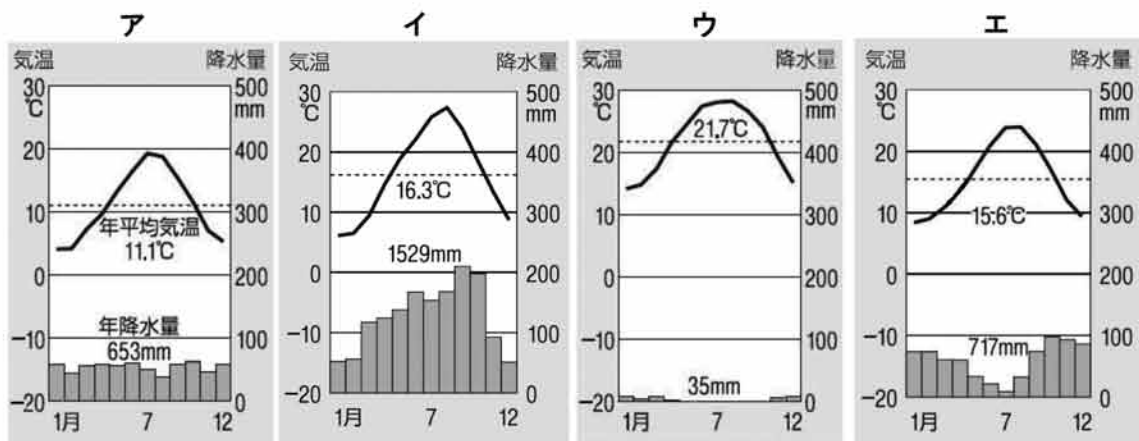
(「世界国勢図会」2013/14 他より作成)

- (2) 資料 2 より、米の生産量の多い国は、世界の 6 つの州のうち、どこに属しているか、答えなさい。
- (3) 資料 3 の伝統的な住居が見られる主な地域として、最も適切なところを、下の地図の ア～オ から 1 つ選び、記号で答えなさい。



(「ディルケ世界地図」2010 年版他より作成)

- (4) ぶどうやオリーブの栽培が盛んなイタリアのローマの雨温図として適切なものを、次の ア～エ から 1 つ選び、記号で答えなさい。



(「理科年表」平成 26 年他より作成)

2 後の 1～3 の問いに答えなさい。

- 1 貴雄^{たかお}さんは、古代までの日本についてレポートにまとめました。下の (1)～(3) の問いに答えなさい。

資料 1	レポート I
人々は、水田の近くにむらを造って住み、たて穴住居の近くには、① <u>ねずみや湿気を防ぐための建物を造り、収穫した米をたくわえました。</u> 稲作が広まり、人口が増えると、人々はまつりごとのたくみな者を指導者とし、むらの守りを固め、土地や水などの争いを交渉や戦いで解決しようしました。	

資料 2	レポート II
王や豪族の墓として大きな古墳が造られ、大和政権（ヤマト王権）の勢力が広がるにつれて、全国の豪族も、② <u>前方後円墳</u>などの古墳を造るようになりました。 その後、地方の豪族が反乱を起こし、大和政権の中でも争いが続きました。この争いを和らげるために、③ <u>聖徳太子</u>が大王（天皇）を中心とする政治制度を整えようしました。	

- (1) 資料 1 の下線部①について、最も関係するものを、資料 3 のア～ウから 1 つ選び、記号で答えなさい。

- (2) 資料 2 の下線部②について、真上から見た時の形をかきなさい。

- (3) 資料 4 の には、資料 2 の下線部③の人物が定め、役人の心構えを示したものが入ります。資料 4 の に当てはまる語句を答えなさい。



資料 4	
一に曰く、和をもつて貴^{たつと}しとなし、さからう（争う）ことなきを宗となせ。 二に曰く、あつく三^{さん}宝^{ぼう}を敬^{うやま}え。三宝とは仏・法（仏の教え）・僧なり。 三に曰く、^{みことのり}詔（天皇の命令）を^{うけたまわ}承りては必ず^{つつし}謹め（守りなさい）。 （「日本書紀」より、一部要約・抜粋）	

2 奈良時代と平安時代の資料について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 資料1の下線部のしくみについて、適切な語句を、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料1	奈良時代の人々の暮らし
8世紀前半の日本の人口は450万人ほどでしたが、人々は律令の決まりに基づいて、6年ごとにつくられる戸籍に、良民と奴婢（奴隷）などの賤民に分けて登録されました。 戸籍に登録された<u>6歳以上の全ての人々には、性別や良民、賤民の身分に応じて口分田があたえられ、その人が死ぬと、国に返すことになっていました。</u>	 (「古代の戸籍」)

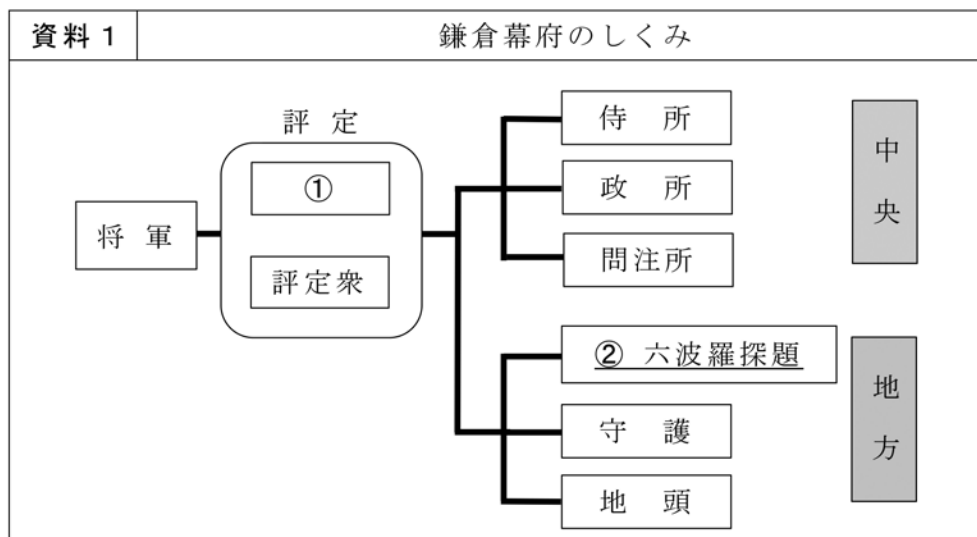
ア 墾田永年私財法 イ 班田収授（法） ウ 大宝律令 エ 御成敗式目

(2) 資料2のように、平安時代には、漢字を書きくずして、より日本語の発音を表現しやすくした文字が生まれました。このように、日本の風土や生活、日本人の感情に合った文化を何文化というか、漢字2文字で答えなさい。

資料2	平安時代の文字の移り変わり
安→ 安 →あ	阿→ア
以→ 以 →い	伊→イ
宇→ 宇 →う	宇→ウ
衣→ 衣 →え	江→エ
於→ 於 →お	於→オ

3 中世の日本について、後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 資料1の ① に当てはまる、北条氏が就いた政治の実権をにぎる地位を答えなさい。



(2) 資料1の下線部②の設置と関係のある「承久の乱」が起こった原因について、適切な内容を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 朝廷が、勢力を回復しようとしていたから。
- イ 天皇と上皇が政治の実権をめぐって争っていたから。
- ウ 実力のある者が、上の身分の者に打ち勝つことが多くなったから。
- エ 天皇の没後、あとつぎをめぐって争いが起こったから。

(3) 資料1の鎌倉時代に生まれた文化について、最も関係の深いものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア



イ



ウ



エ



(4) 南北朝時代に関する説明について、最も適切な内容を、資料2を参考にして、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 全国を支配するしくみを細かく定めた律令に基づいた政治が始まった。

イ 豪族と協力しながら、中国に学んで、天皇を中心とする政治制度を整えた。

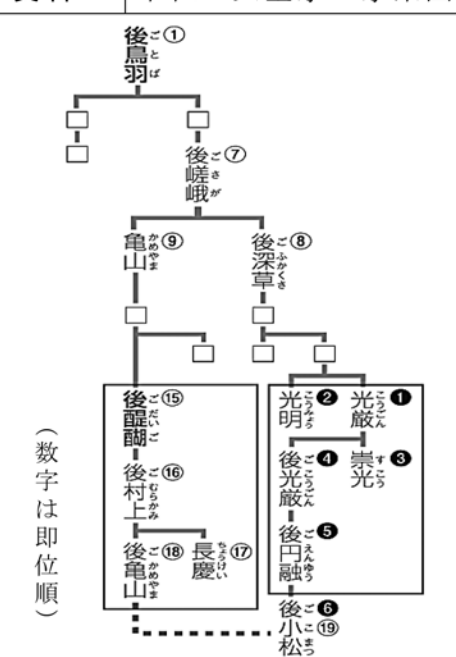
ウ 2つの朝廷が、全国の武士に呼びかけて戦った。

エ 武士の政治を否定し、貴族を重視する政策が採られた。

(5) 南北朝時代の後、農業や手工業が発展し、商人や手工業者は同業者ごとに団体をつくり、営業を独占する権利が認められました。この団体を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 市 イ 惣 ウ 座 エ 土倉

資料2 中世の天皇家の家系図



B 問題

時間（20分）

- 1 花子さんは、世界のさまざまな地域の調査学習で、アフリカに関する資料1と2を見つけ、アフリカに興味をもち、調べることにしました。後の1, 2の問いに答えなさい。

1 資料1と2から、花子さんがもった疑問について、資料3と4をもとに、仮説の A と B に入る適切な内容を答えなさい。

資料1	アフリカで中国の企業が建設した鉄道 (2014年)	資料2	アフリカへの中国の支援 (2015年)
 大西洋岸からアフリカのコンゴ民主共和国まで、アンゴラを横断する重要な鉄道である。内戦で破壊されていたが、中国の支援を受けて復旧した。総工費 18.3 億ドル(約 1875 億円)。		 中国アフリカ協力フォーラム首脳会議で、中国の習近平国家主席が、今後3年間にアフリカ支援600億ドル(約7兆3600億円)を拠出すると表明した。	



花子さんの疑問

なぜ、近年アフリカ諸国と中国との結び付きが強まっているのだろうか。



資料3	アフリカの鉱産資源の分布	資料4	アフリカに関する新聞記事
 (2012年刊 デールケ世界地図帳) □ 石油 △ 天然ガス — 主なパイプライン ◇ 金 ◎ 銅 ◆ ダイヤモンド ◇ コバルト ◇ クロム		○○△△新聞 アフリカで売れまくる中国製品 アフリカの消費者は、今も中国製品を熱心に買い入れているが、それらは電子製品など以前よりも高度な工業製品だ。----- ----- -----	



花子さんの仮説

中国がアフリカ諸国との結び付きを強めているのは、資料 3 と 4 より、アフリカの

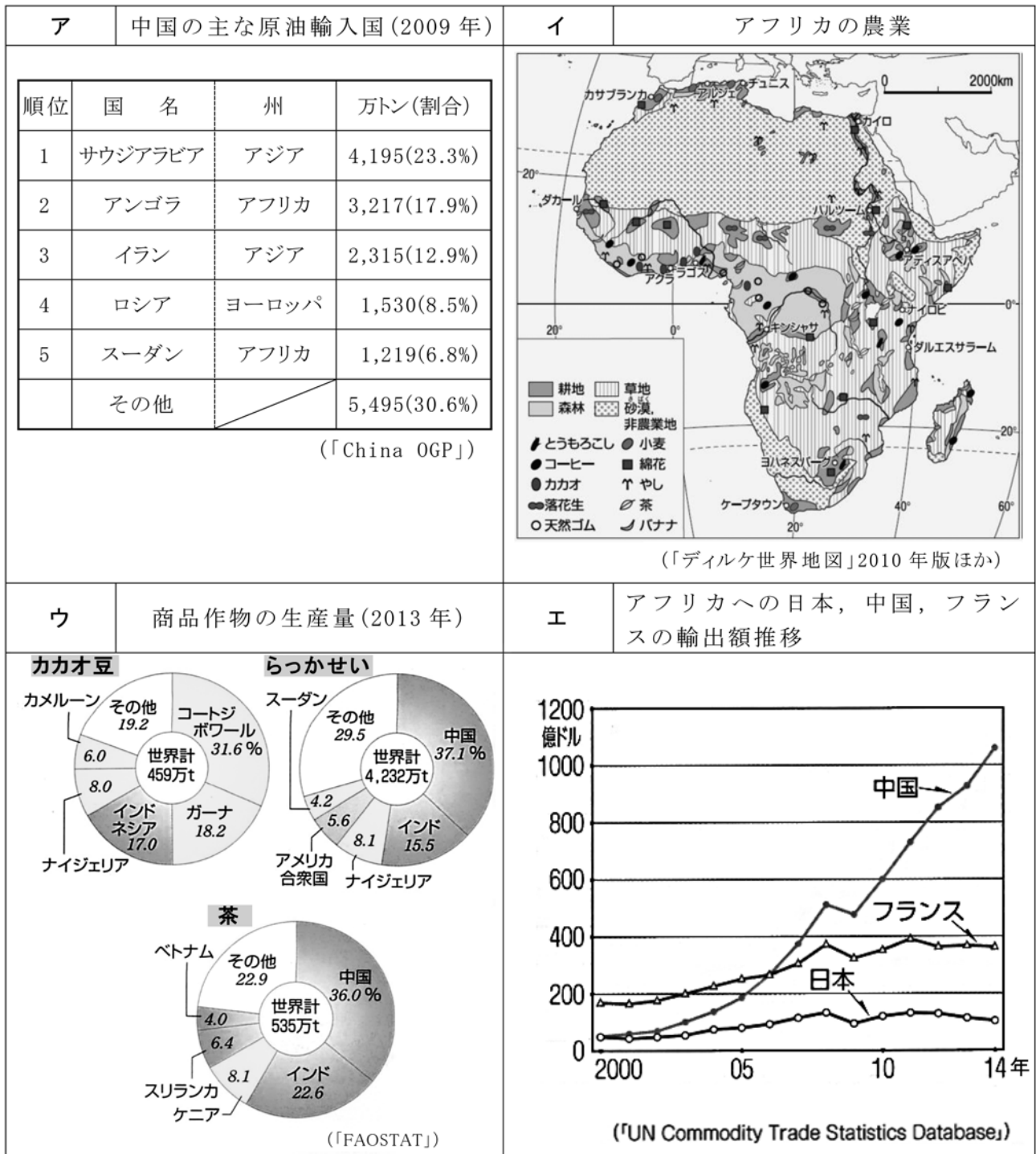
A

，アフリカに

B

ためだろう。

- 2 花子さんは、仮説を確かめようとして、いくつかの資料を集めました。必要となる資料として、適切なものを、次のア～エから 2 つ選び、記号で答えなさい。



2

1

資料 1	藤原氏に関する資料
藤原道長がよんだ歌 この世をば わが世とぞ思う 望月の欠けたることも 無しと思えば 「小右記」	

資料 2	平氏に関する資料
平氏の栄華 高い家柄の人でも、平清盛の一家の若君と向き合い、肩を並べられる人はいない。そのありさまから、清盛の妻の弟である大納言平時忠は、「平氏にあら^{だい}ずんば人にあ^{なごん}らず」といわれたのである。「平家物語」	

大輔さんの疑問 1
なぜ、藤原氏と平氏は政治の実権をにぎることができたのだろうか。

なぜ、藤原氏と平氏は政治の実権をにぎることができたのだろうか。

資料 3	資料 4
藤原氏と皇室との関係図 ※ ○印のついている人物は天皇 ※ 網掛けの人物は女性	平氏と皇室との関係図 ※ ○印のついている人物は天皇 ※ 網掛けの人物は女性

大輔さんの仮説 1
藤原氏と平氏の両氏が、政治の実権をにぎることができた理由は、資料 3 と 4 より ので、政治的な発言力をもったからだろう。

藤原氏と平氏の両氏が、政治の実権をにぎることができた理由は、資料 3 と 4 より
 ので、政治的な発言力をもったからだろう。

- 2 大輔さんは、平氏が政治の実権をにぎった後、平清盛が福原京に都を移したことを知り、調べた内容を資料5にまとめる中で、疑問2をもち、仮説2を設定しました。資料6と7を関連づけて、仮説2の に入る最も適切な内容を、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料5	平安時代における都の移り変わり
	794年～1180年 平安京
	↓
	1180年（6月～11月）福原京

大輔さんの疑問2

なぜ、平清盛は、新しい都として福原京を選んだのだろうか。

資料6	おお ね だの とまり 大輪田泊と福原京
清盛は、1180年に大輪田泊（現在の兵庫県神戸市に平清盛が整備した港）のすぐ近くに都（福原京）を移した。	
	

（「画像／神戸市」他より作成）

資料7	日宋貿易
清盛は、これまでの貿易拠点である博多から、さらに大輪田泊まで宋船を入れて貿易を行った。その結果、この貿易は平氏に大きな利益をもたらした。	

大輔さんの仮説2

平清盛が、新しい都として福原京を選んだ理由は、資料6と7より だろう。

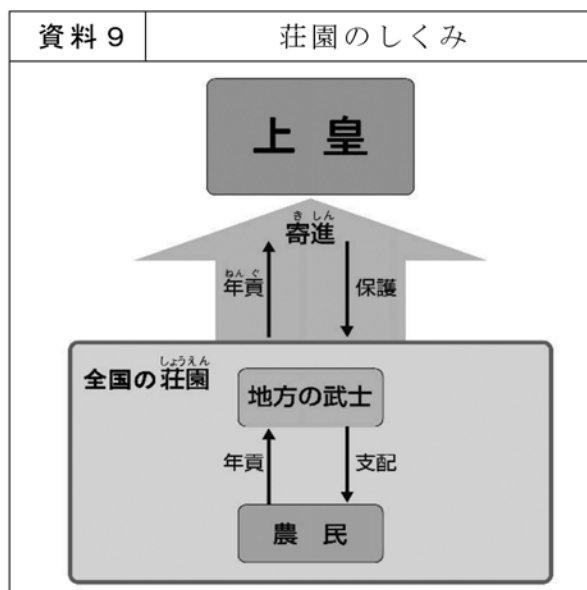
- ア 整備した港の近くに都を移すことで、外国からの攻撃に備えたかったから。
- イ 博多での貿易の権利を独占することで、貿易による利益を得たかったから。
- ウ 整備した港の近くに都を移すことで、貿易による利益を得たかったから。
- エ 貿易で利益を得ようと、広い平野と陸の交通の便を求めているから。

- 3 大輔さんは、藤原氏と平氏による政治の間に権力をもった人物がいることを知り、その人物に関して資料 8 にまとめていく中で、疑問 3 をもち、仮説 3 を設定しました。下の資料 9 と 10 をもとに、仮説 3 の に入る適切な内容を答えなさい。

資料 8	院政と白河上皇
白河天皇は、1072 年に天皇に即位して、1086 年までつとめた。 1086 年以降は、天皇の位をゆずって上皇となったのちも、御所（院）で政治を続ける院政を行い、政治の実権をにぎった。 白河上皇の院政は、1129 年までの 43 年間続き、続いて鳥羽上皇、後白河上皇の院政が行われた。	賀茂川の水の流れ、双六のさいころ、山法師（延暦寺の僧兵）……これだけは、私（白河上皇）の思い通りにならない。 「平家物語」

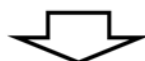


大輔さんの疑問 3
なぜ、院政を行った上皇たちは、政治の実権をにぎることができたのだろうか。



資料 10	上皇の御所（院）を守る武士
貴族の警護を行っていた役人（侍）も、武士となっていました。さらに僧侶の武装に対抗して、地方の武士も登用されました。	

（「法然上人絵伝」京都府知恩院蔵他より作成）



大輔さんの仮説 3
院政を行った上皇たちは、資料 9 と 10 より ことで経済力や武力をもち、政治の実権をにぎったのだろう。